

起請文等神文・罰文集成ならびに索引(稿)(二)

——天福元年(一二三三)から弘安五年(一二八二)まで——

竹 居 明 男

凡例にかえて

一、小稿は、『人文学』第一五八号(平成七年十一月刊)掲載の同名稿の続編であり、対象年代を天福元年(一二三三)から弘安五年(一二八二)に至る五〇年間とした。

一、「神文・罰文」の本文ならびに索引の掲載要領は、前稿に従っているので、その凡例を参照していただきたい。

一、今回、あらたに参照した論稿は次のとおりである。

池田 寿 「高野山における起請文の基礎的研究」(『古文书研究』第三八号)

一、今回掲げ得た文書は、都合一一六通(通し番号一一一から二三三までで、途中一五〇ノ一、一六二ノ一、一六四ノ一あり)である。

神文・罰文

一一一

天福元年(一一三三)五月二十三日付・親元法師請文〔熊谷家文書、鎌倉遺文四五〇二号〕

此条、一事も妄言申上候者、若宮・三所・二所権現之罰、可蒙罷候、

一一二

天福元年(一一三三)八月二十八日付・東大寺充行状案〔東大寺文書、鎌倉遺文四五五二号〕

若有違乱輩者、内加神罰、外可有其誠者、

一一三

天福二年(一一三四)八月五日付・比丘尼清淨等寄進状〔肥前河上神社文書、鎌倉遺文四六八五号〕

若馮高家之強縁、俄辭退山役於無道、猥忘上和下睦之礼法、恣企自高我慢之奸濫、忽緒一山之評定、結構種種之不善、如此等之輩出来者、満山衆徒一味同心、早停廢其一烈(列)、可令追出山門、啻非蒙顯之口勤、必可有冥之裁罰乎、

一一四

文曆二年(一一三五)二月十三日付・藤原家貞・同源次郎運署起請文〔金沢文庫所藏大集経文集裏文書、鎌倉遺文四七二七号〕

若上件状相違仕者、日本国中小諸神、殊当国鎮守小国一宮神爵、家貞并源次郎可罷蒙候状如件、

一一五

文曆二年（一二三五）六月十日付・宗性起請文〔東大寺文書、鎌倉遺文四七六七号〕

釈尊弥勒知見此志、天衆地類、納受此願、

一一六

嘉禎元年（一二三五）十二月二十八日付・聖寂施入状〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文四八七六号〕

乞願、一切三宝、天神地祇、照見弟子丹情、

一一七

嘉禎二年（一二三六）九月付・春日社領莊園田地寄進状〔春日社司祐茂日記、鎌倉遺文五〇四三号〕

此条若有有令違乱之輩者、永准吾神之讎敵、可蒙冥顯之刑罰之状如件、

一一八

嘉禎二年（一二三六）十月八日付・春日社司連署請文〔春日社司祐茂日記、鎌倉遺文五〇六〇号〕

若非上件御供用途之物、構虚言、号为御供米之由、運取人物候者、親泰・能基身之每毛穴、可罷蒙神罰候、

一一九

嘉禎二年（一二三六）十一月付・幸秀寄進状案〔豊後柞原八幡宮文書、鎌倉遺文五〇九五号〕

於致寄進料田之坊（妨）者、八幡大菩薩・四所善神王定有御照覽歟、

一二〇

嘉禎四年(一二三三八)三月十二日付・尼光蓮申文案〔歷代秘録裏文書、鎌倉遺文五二二七号〕

もしなき事も申あけ、政親にあらざる虚言をも申つけ、ひかさまにも申なし候は、伊勢大神宮・八幡大菩薩・

賀茂大明神、凡六十余州神祇冥道之罰、可罷蒙光蓮之身候、

一一一

嘉禎四年(一二三三八)五月七日付・珍慶起請文〔東大寺文書、鎌倉遺文五二三九号〕

上件事、一々ニ此虚言匠申上候者、大日本国中之大小神祇、惣者大仏・八幡罰、珍慶之身八万四千毛孔每可罷蒙候状如件、

一一二

嘉禎四年(一二三三八)六月付・北条泰時起請文〔御成敗式目、鎌倉遺文五二六一号〕

真言教主大日如来、十方三世一切諸仏、大慈大悲地藏菩薩、地前地上諸大薩埵・声聞緣覺諸賢聖主・梵天帝釈四大天王、諸天北辰北斗・七曜九曜・十二宮神・廿八宿・本命元辰・当年属星・内宮外宮大小星宿・別亦焰魔法王・泰山府君・司命司録・五道大神・百部鬼王、天神地祇、年中行疫神并部類眷属等而言、

一一三

曆仁元年(一二三三八)十二月付・播磨守護代願西奉免状〔播磨広峰神社文書、鎌倉遺文五三六七号〕

若背此状輩、可任天王御知見也、

一一四

延応元年(一二三三九)五月八日付・春日社司連署起請文〔春日社恒例臨時神事記、鎌倉遺文五四三二号〕

所詮、彼教範所進社解、乍存知其趣、為適當難、不知子細雖令言上者、春日大明神之罰、社司等各身可能蒙狀如件、

一二五

延応二年(一二四〇)三月二十六日付・葛川起請文〔京都大学蔵葛川明王院文書、鎌倉遺文補一二六五号〕

大講堂中摩訶毘邊遮那如来、根本中堂十二願王□・法輪堂釈迦六天・首楞嚴院三尊界会・山王七社王子眷属、別大聖明王七所大明神・地主大権現八大金剛童子・山神護法、惣大日本国中大小神祇普天率土権実冥道毎驚白言、
(中略)

若於此二ヶ条事、万々一於有犯用輩者、現世二ハ受疾病、長其身損、後生二ハ蒙鎮守加盟冥罰、長隨無間地獄、不可有出期候、若又他人於有切取事、乍見聞不加制止者、同可隨此罪候者也、

一二六

延応二年(一二四〇)四月二十九日付・三船恒田地寄進状〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文五五六三号〕

但於子々孫々、有致妨之輩者、可蒙権現観音冥罰也、或又於下作人致未進者、為寺家進止、可被改易作人之状如件、

一二七

仁治二年(一二四二)六月十八日付・東大寺学侶等連署起請文〔百卷本東大寺文書、鎌倉遺文五八九一号〕

若於背此起請之旨輩者、奉始

大仏・八幡・日本国中大小神祇冥道之罰ヲ、可罷蒙各身之八万四千毛孔コトニ之状如件、

一一八

仁治三年(一二四二)二月付・妙仏西願島田寄進狀案〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文五九九二号〕

若於成聊妨輩者、落三惡道、地獄可棲、

一二九

仁治三年(一二四二)七月付・九条道家置文〔九条家文書、鎌倉遺文六〇四五号〕

於背此等子細之人者、愚身縱雖逐祖罰候、以天眼居此界、可加治罰、縱依一念妄執、暫雖逗留、無疑之間、宙眼照見、可加治罰者也、

一三〇

寛元三年(一二四五)六月一日付・藤原頼経祭文〔金沢靈余殘篇、鎌倉遺文六四九〇号〕

地藏菩薩・地前地上諸大菩薩埵・声聞緣覺

命元神成・当年屬星・内官外官・大小星宿・
帝釈・四大天王・三界諸天・北斗七星・七曜九執・
祇・五道大神・百部鬼王・本
地祇、案上

案下三千余座・烈祖囊聖・年中行疫部類眷屬等言、(中略)是以整秘密真言之儀軌、設冥衆諸神之淨供、添法力於神力日々夜々、可加衛護、

一三一

寛元三年(一二四五)十二月十八日付・尾張俊村・同俊秀連署寄進狀〔尾張宝生院文書、鎌倉遺文六五九八号〕

若至于後々末代、於令違輩(背)此旨之輩者、冥蒙觀音御罰於、顯不可為子孫末葉、

一三二

寛元四年（一二四六）三月一日付・後嵯峨上皇告文〔山城福井成功氏所藏文書、鎌倉遺文六六四二号〕

敬白、真言教主大日如来・十方三世一切諸仏、大慈大悲地藏菩薩、地前地上諸大菩薩・声聞緣覺諸賢聖衆、梵天帝釈、四大天王、三界諸天、北辰北斗、七曜九執、十二宮神、二十八宿、本命元辰、当年属星・内宮外宮、大小星宿、別又焰魔法王、泰山府君、司命司録、五道大神、百部鬼王、天神地祇、年中行疫神并部類眷属等而言、
〔中略〕伏羨焰魔天、宜滿斯悉地、

一三三

寛元四年（一二四六）三月二十一日付・道深法親王起請文〔仁和寺文書、鎌倉遺文六六五三号〕

敬白、密教高祖大毘盧遮那如来、両部界会塵刹聖衆、殊別三世仏母大孔雀明王、三國伝灯諸大阿闍梨、一宗擁護諸天善神等而言、〔中略〕而門徒人不恐仏界之知見、亦肯起請之遺詞、奉渡此仏経壇具等者、永非門徒、金剛天等護法善神、必加速疾之証罰、可失現当之利益、

一三四

寛元四年（一二四六）六月十日付・九条道家告文案〔九条家文書、鎌倉遺文六七一三号〕

敬白、両部界会諸尊聖衆乃至梵天帝釈・四大天王、日本國中王城鎮守諸大明神而言、上件両事、一旦為免其殃、偽申無実者、所奉勸請神祇冥道、諸尊聖衆、一々照我身中、每其毛穴蒙神罰受冥罰、所啓白若無私者、還蒙冥応、

一三五

寛元四年（一二四六）六月二十六日付・沙門行恵〔九条道家〕願文〔九条家文書、鎌倉遺文六七二〇号〕

三世十方尽虚空法界、一切諸仏・大菩薩・摩訶薩埵・諸明王忿怒聖衆・梵王・帝釈・四大天王・十二天世天・護世八天・大黑天神・堅牢地神・大弁才天・大吉祥天・聖歡喜天・散脂大將・廿八部鬼神大將・一切護法天王天衆・諸善神王、更複驚覺ハ、二所太神宮・八幡・賀茂・松尾・平野・稻荷・春日・大原野・吉田・日吉・北野天滿天神、五畿七道權美諸神、七廟聖靈、代々列祖等、三業一心恭敬白言、(中略)若又關東発起陰謀、雖示其趣、偽称不聞、或自是示遣、或自彼申送、共偽称申不存之由、三日若七日之内、上所奉請之宗廟社禊之神明、十方一切之三寶、一々照見シテ、我五体身分、若有所犯者、受冥罰神罰、廻三途八難、立誓已畢、

一三六

寛元四年(一二四六)十月十四日付・阿鏡申文〔河内金剛寺文書、鎌倉遺文六七四八号〕

三宝物虚用者、是无間罪人也、可加治罰、五大忿怒・十大金剛、是非我執甚、為一寺之興隆也文、

一三七

寛元五年(一二四七)二月三日付・撰津勝尾寺禁制〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文六七九九号〕

若背衆議之旨、有違犯之輩者、冥者可蒙三所権現・十六善神之罰、頭者無親疎之偏頗・隨見及聞之、可被行所當之罪科之状如件、

一三八

宝治元年(一二四七)三月二日付・九条道家敬白文案〔九条家文書、鎌倉遺文六八一七号〕

一心不乱敬白、天道及天照大神・八幡大菩薩・賀茂皇太神以下、王城鎮守大小諸神、殊別当家囊祖春日大明神・天滿大自在天神、各各部類眷屬等而言、(中略)仰願、宗廟社禊之靈神、伏乞十方三世之薩埵、以仏眼照之、以

天眼鑑之、縦横割破於我五体身分、一々照見於我八万毛孔、於陰謀事若一言觸耳、於呪詛事若一念存心者、一時一剋中不可免冥罰、

一三九

宝治元年（一二四七）六月二十二日付・栄尊起請文〔薩摩比志島文書、鎌倉遺文六八四四号〕

若此条偽申候は、

日本鎮守大（八カー竹居）幡大井・くまの、権現の御罰を、栄尊可罷蒙候之状如件、

一四〇

宝治元年（一二四七）六月二十三日付・栄尊起請文案〔薩摩比志島文書、鎌倉遺文六八四七号〕

もしこのてういつはり申候ハ、にほんのちんすハちはん大ほさつ・くまの、こんけんの御はちを、みやうそんか身にまかりかふり候へき状如件、

一四一

宝治元年（一二四七）八月五日付・伴信俊・同信忠・同信資連署起請文〔薩摩入来院家文書、鎌倉遺文六八六四号〕

もしこの申しやういつはりおも申候物ならば、にほんのちんすはつはん大ほさつ、ことには、いつ・ハこね・みしま大ミやうしん、そうしては六十よしふのしんきやうたうの御はつお、のふとし・のふた、のふすけまかりかふり候へし、

一四二

宝治元年（一二四七）八月三十日付・本住吉神人百姓等請文案〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文六八七六号〕

若背此旨、致粗略懈怠候者、日本国中有勢无勢大小神祇冥道之罰、神人等可蒙候者也、

一四三

建長元年(一二四九)六月付・東大寺衆徒起請文〔東大寺文書、鎌倉遺文七〇九〇号〕

若於背起請文之輩者、大日本国中大□□大仏八幡、別春日五所大明神、兼又北斗□□九曜属星・琰魔法

王・五道冥官・泰山府□□罰、每違乱人八万四千之毛孔、可罷蒙□□

一四四

建長元年(一二四九)七月二十九日付・光綱請文〔下総中山法華経寺所蔵日蓮筆双子要文三裏書、鎌倉遺文七〇九八

号〕

このてういつはり申候ハハ、にほんこく□(ちカ)うのかミくの御はち、□□(ことカ)にハめうけんの御は

□(ちカ)かふるへく候、返々□の御ふみよろこ□候へく候、

一四五

建長元年(一二四九)七月二十九日付・大江貞次等連署起請文〔根津美術館所蔵文書、鎌倉遺文七一〇〇号〕

若没官注進状外、段歩ヲモ以虚言隠申上候者、大日本国中之大小神祇、惣者大仏八幡罰ヲ二職庄官等身、可罷蒙

候状如件、

一四六

建長二年(一二五〇)八月八日付・円実置文案〔大乘院文書三箇御願料所等指事、鎌倉遺文補一四七三号〕

若此一々所記置、殊春護所分、所々致異論輩、不云親疎、不論貴賤、現世病・白癩・短命ニシ天、衆人ニ被患

厭、後生ニハ墮無間大地獄、雖經無數劫、不可有出離期、殊祖神春日權現大明神、現當悉地併成無間業、加治罰
給へ、

一四七

(建長二年) 八月九日付・円実請文案〔大乘院文書二箇御願料所等指事、鎌倉遺文補一四七四号〕

此申状一事已上存矯飭者、大明神可有治罰候、

一四八

建長三年(一二五二) 十一月十八日付・東大寺法華会料絹代錢起請文〔東南院文書、鎌倉遺文七三七七号〕

若至于違乖此儀之輩者、各可罷蒙神罰冥罰、且 政所御請文之状如此、

一四九

建長四年(一二五二) 十一月十五日付・若狭多烏浦百姓等起請文案〔若狭秦金藏氏文書、鎌倉遺文七四九五号〕

これより後日他諸(所)ニつき候て、沙汰おもつかまつり候は、

一 日本胡忠(国中)之神きみやう道、当国上下大明神、当浦改(沈カ)壽大明神之神罰みやう罰、多烏百姓等
五体身分之八万四千之毛之穴蒙候へき記請文状如件、

一五〇

建長四年(一二五二) 十二月付・僧西念島地寄進状案〔東京大学所蔵長福寺文書、鎌倉遺文七五一一号〕

若件島地出(来脱カ)致妨輩者、日本国中大小諸神、殊加藍護法牛頭天王罰、其身上可蒙、

一五〇ノ一

建長五年(一二五三) 七月五日付・僧湛空金銅三鈷送文案〔高野山文書宝簡集、鎌倉遺文七五七三号〕

若有背此旨人者、奉始 大師聖靈二所明神、至于山上山下護法天等、宜加冥罰於其人、令与灾禍於其身者也、

一五一

建長五年(一二五三) 九月三日付・上林郷民起請文〔大橋文書、鎌倉遺文七六一三号〕

若上件条々事、乍知乍聞、虚言申上候ハ、

奉始春日大明神・七堂三宝、至日本国中大小神祇冥罰、郷民等八万四千毛穴二一々可奉罷蒙状如件、

一五二

建長五年(一二五三) 九月二十三日付・僧源重起請文〔東大寺文書、鎌倉遺文七六一九号〕

虚言ヲ申上候ハ、忝奉始大仏・八幡・觀音・執金剛神・春日四所権現・東西釈迦觀音之冥罰神罰ヲ、僧源雲(重カ―竹居)之每八万四千之毛穴、併可蒙罷之状如件、

一五三

建長六年(一二五四) 九月七日付・平家氏請文〔高野山文書宝簡集、鎌倉遺文七七九四号〕

此条、若一旦為賜御下文、構申虚誕者、梵天帝釈・四大天王、惣日本国中六十余州大小神祇、別丹生高野両所権現部類眷眷(属カ)等之神罰、併可罷蒙于家氏之身上者也、

一五四

建長六年(一二五四) 九月付・平実茂請文〔高野山文書宝簡集、鎌倉遺文七八〇三号〕

此条、若一旦為賜御下文、構申虚誕者、梵天帝釈・四大天王、惣日本国中六十余州大小神祇、別丹生高野両所権

現部類眷等之神罰、併可罷蒙于実茂之身上者也、

一五五

建長七年（一二五五）三月二十二日付・蓮阿・西仏田地寄進状案〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文七八五七号〕

若於背此遺約之輩者、可蒙權現・觀音冥罰、

一五六

康元元年（一二五六）十二月十一日付・定快起請文〔西尾種熊氏所藏文書、鎌倉遺文八〇五七号〕

若令申虚言候者、大仏八幡神罰冥罰、可罷蒙之状如件、

一五七

正嘉元年（一二五七）十二月付・宗範田島宛行状〔大和法隆寺文書、鎌倉遺文八一八四号〕

但背遺言之旨、於致違乱輩者、現世受白癩黒癩、後生可墮在无間地獄也、

一五八

正嘉二年（一二五八）七月九日付・黒河尼起請文〔越後三浦和田文書、鎌倉遺文八二六五号〕

これよりのちも、たひ候はむとおもひもよりて候ものならば、

日本ろくしうむくにかみほとけ、ことにハ、にしよ、くまのみたけのにくまれを、あつうふかくかむり候へく

候、

一五九

正嘉二年（一二五八）八月十四日付・東大寺学侶等起請文〔東京大学所藏東大寺文書、鎌倉遺文八二七三号〕

此上、或存因縁、或得其語、於背此起請文之輩者、日本国中之十余社大小神祇冥^立殊大仏八幡神罰冥罰深重蒙其身、赴黄□(壤)之時者、直可墮無間大城底之状如件、

一六〇

正嘉(二年カ)十月付・沙弥昇蓮請文案〔豊前永弘文書、鎌倉遺文八三一一号〕

若偽□、八幡三所大菩薩并若宮御罰

一六一

正嘉三年(一二五九)三月二日付・教忍起請文〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文八三五四号〕

若上件子細等、構申虚誕候者、当庄西東天王并若宮天満天神、兼又勝尾守護三所権現部類眷属、惣日本国中大小神祇冥罰神罰、教忍身上二可蒙候、

一六二

正元元年(一二五九)七月二十二日付・筑前雷山院主職注進状〔筑前雷山文書、鎌倉遺文八三九六号〕

此状若偽申候者、日本国中大小諸神、殊当御庄鎮守二両宮并四所登志御罰於、中原良高可罷蒙者也、

一六二ノ一

正元元年(一二五九)八月日付・紀伊阿氏河莊々官請文〔高野山文書又統宝簡集、鎌倉遺文八四〇四号〕

八うはいの庄官ニも百さうにも、あいかたらわられて候て、申やふり候ハ、いかなるさいくわニもおこなわれま
いらせ候へき状如件、

一六三

正元元年（一二五九） 閏十月五日付・弁繼・蓮生連署起請文〔欄寢文書、鎌倉遺文八四二六号〕

若此条偽申候ハ、

日本鎮守八幡三所大菩薩、惣六十余州大小神祇冥道、殊当院鎮守鹿手御靈若宮等神罰冥罰、可蒙罷各乃身内毛穴、
每候之状如件、

一六四

（弘長元年〔一二六一〕） 七月十四日付・湛阿弥陀仏書状案〔撰津勝尾寺文書、鎌倉遺文八六八八号〕

若構申矯飭候者、可有当寺伽藍証罰候、

一六四ノ一

弘長元年（一二六一） 十一月日付・紀伊阿氏河莊官百姓請文〔高野山文書又統宝簡集、鎌倉遺文八七四三号〕

若申上候三月お罷過候之物ハ、度々申上候事にて候へとも、今度ニおき候てハ、百姓庄官等身ニいかなるさいく

わおも、蒙罷候へき之状如件、

一六五

弘長二年（一二六二） 六月二十五日付・行清立願文案〔石清水文書、鎌倉遺文八八二五号〕

以前条々、（中略）大菩薩・若宮・武内大臣、部類眷屬、弟子か心底を照鑑せしめて、我願を成就せしめたま

へ、

一六六

弘長三年（一二六三） 正月十三日付・円守起請文〔エール大学東大寺文書、鎌倉遺文八九一三三号〕

起請文等神文・罰文集成ならびに索引（稿）（二）

奉始大仏八幡三所・日本国中大小神祇・天照大神・春日權現、殊自宗三宝冥顯爵、每各々身八万四千方孔、具可罷蒙、

一六七

文永元年(一二六四)十一月三日付・備前行人掟写〔備中吉備津神社文書、鎌倉遺文九一七八号〕

若背此義輩者、当国一宮御爵可罷蒙者也、

一六八

文永二年(一二六五)九月二十六日付・藤原資兼去文案〔伊勢光明寺文書、鎌倉遺文九三五七号〕

挿邪_■令難濟者、忝始_□二所太神宮、惣可罷蒙日本国中大小神祇冥道神罰冥罰者也、

一六九

文永三年(一二六六)二月十日付・坂上盛澄証判乞請状案〔高野山文書室簡集、鎌倉遺文九五〇三号〕

若申虚誕候者、可罷蒙当社權現神罰冥罰者也、

一七〇

文永三年(一二六六)七月付・尼妙阿弥陀仏田地寄進状〔東大寺文書、鎌倉遺文九五五七号〕

若子々孫々於相伝之輩、違失(背力)寄進旨者、現世多病短寿、後生可墮無間地獄之状如件、

一七一

文永三年(一二六六)十二月十五日付・東大寺僧等連署起請文〔エール大学所蔵東大寺文書、鎌倉遺文九六一四号〕

若於背此旨輩者、奉始大仏・四王・八幡三所伽藍并諸十八_□大日本国大小神祇一万三千七百余座之冥顯之

罰□□之状如件、

一七一

文永三年（一二六六）十二月二十四日付・東大寺僧等連署起請文〔京都大学所蔵東大寺文書、鎌倉遺文九六二二一號〕

若於背于此起請之輩者、奉始大仏・八幡、日本国中大小神祇・天照大神・春日權現、殊自宗三宝眞蹟罰、每違背輩八万四千毛孔、可罷蒙之状如件、

一七二

（年月日欠）快春起請文〔京都大学所蔵東大寺文書、鎌倉遺文九六二二二號〕

若此等子細偽申、又相背事有之者、奉始

梵釈四王三界諸天五道眞蹟、殊日本国中大小神神祇、別大仏八幡大菩薩八大菩薩二月堂生身觀自在尊神罰冥罰快春身八万四千之毛孔每爾蒙之、現世者貧窮孤独報を受、白癩

一七四

文永三年（一二六六）十二月二十七日付・東大寺世親講衆連署起請文〔百卷本東大寺文書、鎌倉遺文九六三〇號〕

右、五ヶ条起請、非同之衆議、私竊雖令申返、一々於令違背者、奉始大仏・四王・八幡三所、仏法擁護春日權現・当寺勸請八大明神・天照大神・賀茂・北野・熊野權現・十万金剛童子・一万眷属・都大日本国中有勢無勢大小神祇、当年行疫流行神等、七曜九曜、廿八宿、十方三世、一切三宝、殊二月堂觀音世親并、自宗高祖諸大師等冥罰神罰、每違背輩八万四千之毛孔、具以可罷蒙之状如件、

一七五

起請文等神文・罰文集成ならびに索引(稿)(二)

文永四年(一二六七)六月四日付・紀伊十津川十八郷莊司等起請文〔高野山文書宝簡集、鎌倉遺文九七二〇号〕

如此等条々事、若構申虚誕者、

大師明神金剛天等、日本国中大小諸神御治罰、可罷蒙連暑(署)仕一結衆等十八郷山民等身上之状如件、

一七六

文永五年(一二六八)七月付・加賀白山莊嚴講結衆起請文〔白山比咩神社文書、鎌倉遺文一〇二八三号〕

若背此条々者、

上奉始梵王釈王・三界諸天、下難陀跋難□(陀)等四海龍神、惣日本国中大小神祇、別当山守護白山妙理權現并

七社御王子眷属、神罰冥罰各身可罷蒙之状如件、

一七七

文永五年(一二六八)九月二十二日付・山部光房起請文写〔肥後阿蘇文書写、鎌倉遺文一〇三〇二号〕

もしこの事いつはり申候ハ、

あうきたてまつるあそ十にく(二宮)、たつはら七十よそやむらとうのしよ大明神之御はちを、みつふさか身

に、かふり候へし、

一七八

文永六年(一二六九)七月八日付・宗性奉加状〔東大寺所蔵二明対面抄裏文書、鎌倉遺文一〇四五五号〕

仰願七堂三宝冥衆、殊別春日權現大明神、知見証明、

一七九

文永六年（一二六九）八月付・紀伊柴目村番頭百姓等起請文〔高野山文書又続宝簡集、鎌倉遺文一〇四八一号〕

以前条々存虚誕□（構力）申偽言者、可罷蒙奉始梵天帝釈・四大天王、三界空居炎魔王界、殊八幡大菩薩、別舟（舟）生高野兩大明神、部類眷属百廿伴、王城鎮守諸大明神、惣日本国中大小諸神之御治罰、於番頭百姓等之身上者也、

一八〇

文永六年（一二六九）九月付・東大寺学侶連署起請文〔百卷本東大寺文書、鎌倉遺文一〇五〇四号〕

条々起請、云當時、云後代、於違背之輩者、

大仏遮那・脇士四天・護法善神・一切三宝、当寺勸請八幡大菩薩・春日権現・部類眷属、惣日本国中一切冥道、為此状違背人、与灾难、現当二世、衆苦連続、而未永劫、無出離、墮八大地獄之釜、為三熱火湯之薪、

一八一

文永六年（一二六九）十二月十六日付・觀俊聖教等目錄〔山城醍醐寺文書、鎌倉遺文一〇五四六号〕

鎮守三宝護法天等可有照鑑、

一八二

文永七年（一二七〇）正月十七日付・澄慧願文〔大和西大寺叡尊像納入文書、鎌倉遺文一〇五六八号〕

如此誓願若虚妄、為誑十方仏菩薩、依此虚妄罪過因、現身癩病切身心、当求必隨無間底、不聞父母三宝名、

一八三

文永七年（一二七〇）八月十日付・法助金剛定院定書〔山城高山寺文書、鎌倉遺文一〇六六六号〕

猥忘師資付法之恩德、不恐極重邪惡之業因者、(中略)即隨災殃苦難之中、無免脫死、又入阿鼻火坑之底、失出一期、兩部諸尊金剛天等、一宗善神護法冥衆、殊垂照察、冥加証罰、

一八四

文永七年(一二七〇)十月付・若狹太良莊内檢目錄〔東寺百合文書は、鎌倉遺文一〇七一八号〕

若此条令申偏頗者、可蒙六十余国之大小神等罰之状如件、

一八五

文永八年(一二七一)六月十七日付・紀伊神野真国猿川莊官等起請文〔高野山文書宝簡集、鎌倉遺文一〇八三九号〕

若背此旨者、可被召所職、若構申虚誕、令遣失置文者、蒙 梵天帝尺四大天王、日本国中大小神祇、天野四所部類眷属、大師金剛天等兩部諸尊神罰冥罰、於各々身上八万四千毛孔、今生受白癩黑癩重病、来世墮無間地獄、可無出期之状如件、

一八六

文永八年(一二七一)十二月十八日付・真徹置文案〔山城醍醐寺文書、鎌倉遺文一〇九三五号〕

已上以金剛天等為証明、一々不可違犯、

一八七

文永九年(一二七二)四月付・春日社司連署置文〔中臣祐賢記文永九年四月三十日条、鎌倉遺文一一二二二号〕

若乍加判形、背此状旨、於致矯飭之沙汰者、尊神之御罰定不空者哉、

一八八

文永九年（一二七二）六月十七日付・尼妙法田地寄進状〔百卷本東大寺文書、鎌倉遺文一一一五〇号〕

若背此旨之輩者、永遠失出離道、可墜阿鼻地獄、

一八九

文永九年（一二七二）七月八日付・山部つきよし起請文写〔肥後阿蘇文書、鎌倉遺文一一〇六四号〕

もしこれいつはり申候ハ、

あふきたてまつる十二くんたい明神のこはつをまかりかふるへき状如件、

一九〇

文永九年（一二七二）九月三日付・筑前宗像大神宮神宮等運署起請文〔筑前宗像神社文書、鎌倉遺文一一〇九五号〕

若神官僧官等、不致一味同心之沙汰者、日本国土本主天照大神・同御子宗像三所大神宮・織旗大明神・許斐權現

部類眷属神五千九百一十九所乃御神罰乎、可蒙運署衆等身中之状、

一九一

文永九年（一二七二）九月二十七日付・伊予弓削島莊百姓等運署起請文〔東寺百合文書と、鎌倉遺文一一一〇五号〕

若百姓等、麦田畠損亡なき事の虚言申上候者、

奉始 日本国中大小神祇神罰冥罰、百姓等身上可蒙罷候、

一九二

文永十年（一二七三）三月二十六日付・東大寺執行所所司運署起請文〔百卷本東大寺文書、鎌倉遺文一一二一五号〕

若背此議候者、日本國中太少(小) 神祇冥道、殊大仏・四王・八幡三所・春日大明神御罰、每八万四千毛穴、可罷蒙之状如件、

一九三

文永十年(一二七三) 三月二十六日付・東大寺年預五師宗明起請文〔百卷本東大寺文書、鎌倉遺文一一二一六号〕

若背此儀之輩者、大仏・四王・八幡三所・住持三宝御罰、每八万四千毛穴、可罷蒙之状如件、

一九四

文永十年(一二七三) 四月十日付・東大寺俱舍三十講衆起請文〔東大寺文書、鎌倉遺文一一二三九号〕

若此中令隱密、請取生料、被相語于雜掌之輩、違二ヶ条者、大仏・四王・八幡三所御罰、可罷蒙現当二世之状如件、

一九五

文永十年(一二七三) 五月十六日付・豊後高田莊地頭代狼藉実檢注進状〔書陵部所蔵八幡宮関係文書、鎌倉遺文一一二六二号〕

右、此等子細、若屬一方令掠申上候者、日本□□(国中カ) 大小神祇、殊正八幡宮・天満天神御罰□□(可カ) 罷蒙之状如件、

一九六

文永十年(一二七三) 十月五日付・豊後朝見郷弁分・花藤名百姓等起請文案〔書陵部所蔵八幡宮関係文書、鎌倉遺文一一四二五号〕

此条属一方偽申上候者、日本国中大小諸神、殊王城鎮守八幡大菩薩、熊野三所權現、当国鎮守由原大井、松坂惣社天満天神、当郷鎮守若松大菩薩御爵、各身可罷蒙之状如件、

一九七

文永十年(一二七三)十月五日付・豊後朝見郷久光名・末松名百姓起請文案〔書陵部所藏八幡宮關係文書、鎌倉遺文一一四二六号〕

此条属一方偽申上候者、日本国中大小諸神、王城鎮守 八幡大菩薩、熊野三所權現、当国鎮守由 [] (原大井) 菩薩、松坂惣社天満天神、当郷鎮守若宮大菩 [] (薩) 御爵、各身可罷蒙之状如件、

一九八

文永十年(一二七三)十月二十一日付・若狭太良莊損得内檢帳〔京寺百合文書外、鎌倉遺文一一四三九号〕
若此条令申偏願者、六十余国大小神(祇脱力)等可有御知見之状如件、

一九九

(年月日欠) 審海鹿島神社勸請表白文案〔金沢文庫文書、鎌倉遺文二二五一四号〕

仰願十方法界諸仏善逝、知見此法会、同加護念、六十余州諸神冥道、影向此道場、同受礼奠 [] (尚) 響、
二〇〇

文永十二年(一二七四)十一月二十六日付・藤原宗永起請文〔高野山文書又統宝簡集、鎌倉遺文一一七六〇号〕

之 [] 大小神祇冥衆罰、八万四千乍毛穴罷可蒙候、

二〇一

建治元年（一二七五）七月四日付・從蓮起請文〔高野山文書又統寶簡集、鎌倉遺文一一九四四号〕

右、以前条々、若偽申候者、

日本国中小神祇冥衆御罰於、沙弥從蓮每八万四千毛孔、可罷蒙之状如件、

一一〇二

建治元年（一二七五）七月五日付・中臣祐賢起請文〔中臣祐賢記建治元年七月五日条、鎌倉遺文一一九四六号〕

此条若令申矯饒者、可罷蒙春日大明神・七堂三宝、惣六十余州大小神祇宜道神罰宜罰、祐賢之身之状如件、

一一〇三

建治元年（一二七五）七月十二日付・春日社司連署起請文〔中臣祐賢記建治元年七月十三日条、鎌倉遺文一一九五四号〕

此条若得彼等語、存矯饒、構申虚誕者、可罷蒙奉始 天照大神、日本国中六十余州、普天率土大小神祇冥道、殊

春日大明神・山内諸神・七堂三宝神罰冥罰、於中臣社司氏人等各身之状如件、

一一〇四

建治元年（一二七五）八月五日付・南郷神人申状〔中臣祐賢記建治元年八月八日条、鎌倉遺文一一九八四号〕

若此状、為申達我方之訴訟、存矯饒構申虚誕者、可罷蒙 春日大明神并七堂三宝神罰冥罰、於南郷神人等面々身之状如件、

一一〇五

建治元年（一二七五）十二月付・紀伊猿川・真国・神野三箇荘莊官請文〔高野山文書又統寶簡集、鎌倉遺文一二一八

四号]

若背此旨者、可蒙日本国中大小神祇・天野四所権現部類・高祖大師・金剛天等御治罰、於面々身上之状如件、
二〇六

(建治二年〔一二七六〕七月十八日付・定宴申状〔東寺百合文書は、鎌倉遺文一二四一五号〕

若さ様の事を申なから、不申と申候は、神仏のにくまれを可蒙由、令陳申候也、

二〇七

建治二年(一二七六)七月十八日付・平成近起請文〔東寺百合文書は、鎌倉遺文一二四一六号〕

若件事、乍申不申と申上候は、日本国中大小神祇之罰を蒙罷可候之状如件、

二〇八

建治二年(一二七六)十月付・若狭太良莊内検目録〔東寺百合文書は、鎌倉遺文一二五三四号〕

若此条令申偏願者、六十余国大小神等、可有御知見之状如件、

二〇九

建治二年(一二七六)十二月二十五日付・沙弥実円(惟宗言光)起請文〔東南院文書、鎌倉遺文一二六〇六号〕

もしふりよのほかに、いらんいてきたらんととき、このほうこうをわすれて、このせんくわをきうへんせすして、

しかもうりけんをこさく(乞索)のしやうとせうして、いらんをいたす物ならハ、

きたの、たまん天神、くまの、こんけんのはち、実円か身中二まかりかふり候へく候、

一一〇

建治三年(一二七七)七月付・平弘純起請文案〔薩藩旧記、鎌倉遺文一二七八七号〕

上件条々事、偽申上候者、

奉為始上梵王帝釈、王城鎮守八幡大菩薩・賀茂下上等十八大明神・祇園・北野等、春日・稻荷・住吉・山王七社
王子眷屬、殊日本第一大靈験熊野三所權現、惣日本六十余州大小神祇神罰冥罰、可蒙于弘純之身中八万四千毛穴
仁候、

一一一

建治三年(一二七七)十一月二日付・大和海住山寺衆僧等連署起請文〔大和海住山寺文書、鎌倉遺文一二八九四号〕

如此乍定、背件制方者、奉始当山大聖觀自在尊并春日大明神・天満天神、惣日本国大小諸神罰、可每八万四千毛
穴罷蒙之状如件、

一一二

建治三年(一二七七)十二月付・金剛峰寺衆徒置文案〔高野山文書又続宝簡集、鎌倉遺文一二九五七号〕

若背斯旨者、奉始 梵天帝尺四大天王、両界諸尊常住仏陀、并三地大聖両所權現之御治罰、可罷蒙各之身上之状
如件、

一一三

弘安二年(一二七九)十月二十一日付・親近田地寄進状〔高野山文書続宝簡集、鎌倉遺文一三七四一号〕

三宝祖師、証知懇志、助願念矣、

一一四

弘安三年（一二八〇）六月二十三日付・若次郎等連署起請文〔大和尊勝院文書、鎌倉遺文一三九九九号〕

若此申上候事無実候者、奉始 大仏・八幡・春日権現神罰冥罰ヲ、各身中可罷蒙状如件、

二二五

弘安三年（一二八〇）六月二十三日付・大允入道等連署起請文〔大和尊勝院文書、鎌倉遺文一四〇〇〇号〕

若件酒ヲ人ノ取候ヲモ見聞、若ハ乍不取申上候ハ、大仏・八幡、惣日本国中之大小ノ神罰冥罰各身蒙罷、現世

ニハ白癩黒癩得病、後生ニハ墮無間地獄、永不可^有出期状如件、

二二六

弘安三年（一二八〇）八月一日付・あこ女起請文〔中臣祐賢記弘安三年八月十一日条、鎌倉遺文一四〇三九号〕

もしこれぞ、ろなる事にも申候ハ、春日大明神・七堂三宝ハちを、あこさうしのみに、かふり候へき状如件、

二二七

〔年月日欠〕某願文〔大和西大寺藏叡尊像胎内文書、鎌倉遺文一四〇九六号〕

敬白、一体理体化相住持、一切三宝□三師七証、現前得戒大比丘□梵釈四王龍神□
護天等而言、

二二八

弘安三年（一二八〇）十一月二十五日付・肥前浦部島百姓等連署起請文〔肥前青方文書、鎌倉遺文一四一八六号〕

もしこのてうい□（つカ）はり申あげ候ハ、かミくたんのくわんしやうしたてまつるたいせうしよしんのしん

はちミやうはちを、ちかくハ三日、とをくハ七日、なかくとをく、をのくしんちうの八万四千のけのあなこ

に、まかりかふるへきしやう、くたんのことし、

二二九

弘安三年(二二八〇)十一月二十五日付・肥前浦部島百姓等連署起請文案〔肥前青方文書、鎌倉遺文一四一八七号〕

もしこのてういつはり申あ□□(け候カ)は、かミくたんのくわんしやうしまいら七候大□□(小のカ)しよ
しんのしんハちミやうハちを、ちかくハ三日、□□(とをカ)くハ七日、なかうとをう、をのくしんちう八万
□(四)千のけのあなことに、まかりかふるへきしやう、くたんのことし、

二二〇

弘安三年(二二八〇)十一月二十五日付・肥前浦部島百姓等連署起請文案〔肥前青方文書、鎌倉遺文一四一八八号〕

もしこのてういつはり申上候ハ、かミくたんのくわんしやうしまいらする大小のしよしんのしんハちミやうハ
ちを、ちかくハ三日、とをくハ七日、なかうとをう、をのくしんちう八万四千のけのあなことに、まかりかふ
るへきしやう、くたんのことし、

二二二

(年月日欠)・肥前浦部島百姓等連署起請文案〔肥前青方文書、鎌倉遺文一四二八九号〕

もしこのてういつはり申あけ候□□□□□□(ハ、かミクカ)たんのくわんしやうしたてまつる
(大小のしよしんはカ)ちをち

二二二

弘安四年(二二八二)九月十日付・平末弘起請文〔エール大学所蔵文書、鎌倉遺文一四四四九号〕

若為通□(後カ)難、虚言令言上候者、奉始大仏・八幡・金峯・熊野、惣者日本国中大小之諸神々罰冥罰、末弘

之八万四千每毛穴、可蒙罷候之(状脱) 如件、

二二三

弘安五年(一二八二) 四月十五日付・島津長久証状〔薩摩比志文書、鎌倉遺文一四六一号〕

若此条偽申候者、日本国中太少神罰、可罷蒙長久之身候、

神文・罰文索引(稿)

【仏教の世界観】

無間地獄 一二五(長随――)、一四六(墮無間大地獄)、一五七(可墮在无間地獄)、一五九(直可墮無間大城底)、一七〇(可墮――)、一八二(当来必墮無間底)、一八五(墮――)、可無出期、二二五(墮――)、永不可有出期

三惡道 一二八(落――)

地獄 一二八(――可棲)

三塗八難 一三五(廻――)

天道 一三八

三界空居炎魔王界 一七九

八大地獄 一八〇(墮――之釜、為三熱火湯之薪)

起請文等神文・罰文集成ならびに索引(稿)(二)

阿鼻 一八三(入)——火坑之底、失出期)、一八八(可墜——地獄)

【諸仏・諸菩薩・諸天・護法神・諸経等】

釈尊弥勒 一一五

一切三宝 一一六、一八〇、二二七

大仏 二二一(——八幡)、二二七(——八幡)、一四三(——八幡)、一四五(——八幡)、一五二(——八幡)、

一五六(——八幡)、一五九(——八幡)、一六六(——八幡三所)、一七二(——四王・八幡三所伽藍并

諸十八[]、一七二(——八幡)、一七三(——八幡大菩薩)、一七四(——四王・八幡三所)、一八〇

(——遮那)、一九二(——四王八幡三所)、一九三(——四王八幡三所)、一九四(——四王八幡三所)、二

一四(——八幡)、二二五(——八幡)、二二二(——八幡)

大日如来 一一二(真言教主——)、一三二(真言教主——)

十方三世一切諸仏(三宝) 二二二、二二二、一七四

地藏菩薩 一一二(大慈大悲——)、一三〇、一三二(大慈大悲——)

地前地上諸大薩埵(地前地上諸大菩薩埵) 一一二、一三〇、一三二

梵天帝釈 一一二、一三〇(帝釈)、一三三、一三四、一三五(梵王——)、一五三、一五四、一七三(梵

釈)、一七六(梵王釈王)、一七九、一八五(梵王帝尺)、二二〇(梵王帝釈)、二二二(梵天帝尺)、二

一七(梵釈)

四大天王(四天王) 一一二、一三〇、一三二、一三四、一三五、一五三、一五四、一七一(四王)、一七三(四

- (王)、一七四(四王)、一七九、一八〇(脇士四天)、一八五、一九二(四王)、一九三(四王)、一九四(四王)、二二二、二二七
 諸天 一二二、一三〇(三界)、一三二(三界)、一七三(三界)、一七六(三界)
 天王 一三三
 大講堂中摩訶毘邊遮那如来 一二五
 根本中堂十二願口 一二五
 法輪堂釈迦六天 一二五
 首楞嚴院三尊界会 一二五
 大聖明王 一二五(七所大明神)
 八大金剛童子 一二五
 護法 一二五(山神)
 觀音 一二六(権現)、一五二、一五五(権現)、二二一(当山大聖觀自在尊)
 焰魔天 一三二
 大毘盧遮那如来 一三三(密教高祖)
 両部界会塵刹聖衆 一三三
 大孔雀明王 一三三(三世仏母)
 金剛天等護法善神 一三三

两部界会諸尊聖衆	一三四
三世十方尽虚空法界一切諸仏……	一三五
大菩薩・摩訶薩埵	一三五
諸明王・忿怒聖衆	一三五
十二天世天	一三五
護世八天	一三五
大黒天神	一三五
堅牢地神	一三五
大弁才天	一三五
大吉祥天	一三五
聖歡喜天	一三五
散脂大將	一三五
廿八部鬼神大將	一三五
一切護法天王天衆	一三五
諸善神王	一三五
十方一切之三寶	一三五
五大忿怒	一三六

- 十大金剛 一三五六
 十六善神 一三七七
 山上山下護法天 一五〇ノ一
 七堂三宝 一五一、一七八（——冥衆）、二〇二、二〇三、二〇四、二二六
 執金剛神 一五二
 東西釈迦觀音 一五二
 当寺伽藍 一六四
 自宗三宝 一六六、一七二
 伽藍并諸十八□□ 一七一
 三界諸天五道冥顯 一七三
 八大菩薩 一七三
 二月堂生身觀自在尊 一七三
 十方金剛童子・一萬眷屬 一七四
 二月堂觀音世親并 一七四
 金剛天 一七五、一八五、一八六（——等）、二〇五（——等）
 難陀跋難□（陀）等四海龍神 一七六
 護法善神 一八〇

- 鎮守三宝護法天等 一八一
两部諸尊金剛天等 一八三
一宗善神護法真衆 一八三
金剛天等阿部諸尊 一八五
住持三宝 一九三
両界諸尊常住仏陀 二二二
三宝祖師 二二三
龍神 二二七
□護天 二二七
- 【天神地祇・鎮守神等】
若宮・三所・二所権現 一一一
日本国中大小(之)諸神 一二四、一五〇、一六二、一七五、一七九、一九六、一九七、二二三
当国鎮守…… 一一四、一九六
小国一宮 一一四
天衆地類 一一五
天神地祇 一一六、一二三、一三二
八幡(八幡大菩薩) 一一九、一二〇、一二二、一二七、一三五、一三八、一三九(日本鎮守大幡大井)、一四〇

(にほんのちんすはちはん大ほさつ)、一四一(にほんのちんすはつはん大ほさつ)、一四三、一四五、一五二、一五六、一五九、一六〇(三所大菩薩)、一六三(三所大菩薩)、一六五(大菩薩)、一六六(三所)、一七一(三所)、一七二、一七四(三所)、一七九、一八〇、一九二(三所)、一九三(三所)、一九四(三所)、一九六、一九七、二二〇、二二四、二二五、二二三

四所善神王 一一九

伊勢太神宮 一二〇、一三五(二所太神宮)、一六八(二所太神宮)

賀茂 一二〇(大明神)、一三五、一三八(皇太神)、一七四、二二〇(下上等十八大明神)

六十余州神祇冥道 一二〇、一四一(六十よしふのしんきみやうたう)

大日本国中之大小神祇 一二二、一四三(大日本国中大□)、一四五

年中行疫神 一二二、一三〇(年中行疫)、一三二

部類眷属 一二二、一三〇、一三二、一三八(各各)、一五三(部類眷属)、一五四、一六五、一八〇

春日 一二三(大明神)、一三五、一三八(当家囊祖大明神)、一四三(五所大明神)、一四六(祖神)

——権現大明神、一四七(大明神)、一五一(大明神)、一五二(四所権現)、一六六(権

現)、一七二(権現)、一七四(仏法擁護権現)、一七八(権現大明神)、一八〇(権現、

一九二(大明神)、二〇二(大明神)、二〇三(大明神)、二〇四(大明神)、二一〇、二二

一(大明神)、二二四(権現)、二二六(大明神)

山王七社王子眷属 一二五、二二〇

七所大明神 一二五

地主大権現 一二五(——八大金剛童子)

山神護法 一二五

鎮守 一二五

権現 一二六(——観音)、一五五(——観音)

日本国中大小神祇冥道 一二七、一六八、一九二

□祇 一三〇

本 □地祇園 一三〇

案上案下三千余座 一三〇

一宗擁護諸大善神 一三三

日本国中王城鎮守諸大明神 一三四

松尾 一三五

平野 一三五

稻荷 一三五、二二〇

大原野 一三五

吉田 一三五

- 日吉 一三五
 五畿七道権実諸神 一三五
 所奉請之宗廟社禊之神明 一三五
 天照大神 一三八、一六六、一七二、一七四、一九〇（日本国土本主——）、二〇三
 王城鎮守大小諸神 一三八
 当家囊祖春日大明神 一三八
 宗廟社禊之靈神 一三八
 十方三世之薩埵 一三八
 日本鎮守…… 一三九、一四〇（にはんのちんす……）、一四一（にはんのちんす……）、一六三
 くまの、権現 一三九、一四〇（くまの、こんけん）、一五八（くまの）、一七四（熊野権現）、二〇九（くま
 の、こんけん）、二二二（熊野）
 いつ 一四一
 ハこね 一四一
 みしま大ミやうしん 一四一
 日本国中有勢无勢大小神祇冥道 一四二
 にはんこく□うのかミ 一四四
 めうけん 一四四

祖神春日權現大明神 一四六

日本胡忠(國中)之神きみやう道 一四九

当国上下大明神 一四九

当浦改(沈カ)壽大明神 一四九

伽藍護法牛頭天王 一五〇(伽藍護法——)

牛頭天王 一五〇

二所明神 一五〇ノ一

日本国中大小神祇 一五一、一六一、一六六、一七二、一七三、一七六、一八五、一九一、一九五、二〇五、二〇

七、二二五(——大小ノ神)、二二三(日本国中大小神)

日本国中六十余州大小神祇 一五三、一五四

丹生高野両所權現 一五三(——部類眷眷)、一五四(——部類眷屬)、一七九(舟生高野両大明神部類眷屬百廿

伴)

日本ろくしうむくにかミほとけ 一五八

にしよ 一五八

みたけ 一五八

日本国中之千余社大小神祇 一五九

若宮 一六〇、一六五

- 当庄西東天王并若宮天満天神 一六一
 西東天王 一六一
 若宮天満天神 一六一
 勝尾守護三所権現部類眷属 一六一
 当御庄鎮守二両宮并四所登志 一六二
 六十余州大小神祇冥道 一六三、二〇二
 当院鎮守鹿手御靈若宮等 一六三
 当国一宮 一六七
 当社権現 一六九
 大日本国大小神祇一万三千七百余座 一七一
 仏法擁護春日権現 一七四
 当寺勧請…… 一七四
 八大明神 一七四、一八〇
 大日本国中有勢無勢大小神祇 一七四
 当年行疫流行神 一七四
 明神 一七五（大師——金剛天）
 当山守護白山妙理権現并七社御王子眷属 一七六

- 白山妙理権現 一七六
七社御王子眷属 一七六
あそ十にく(二宮) 一七七
たつはら七十よそ 一七七
やむらとうのしよ大明神 一七七
日本国中一切冥道 一八〇
六十余国(之)大小神(等) 一八四、一九八、二〇八
天野四所部類眷属 一八五、二〇五(天野四所権現部類)
尊神 一八七
十二くんたい明神 一八九
宗像三所大神宮 一九〇(同御子――)
織旗大明神 一九〇
許斐権現 一九〇
部類眷属神五千九百一十九所 一九〇
正八幡宮 一九五
王城鎮守…… 一九六、一九七、二一〇
熊野三所権現 一九六、一九七、二一〇(日本第一大靈験――)

- 由原大菩薩(并) 一九六、一九七
 当郷鎮守…… 一九六、一九七
 若松大菩薩 一九六
 若宮大菩薩(薩) 一九七
 六十余州諸神冥道 一九八
 □大小神祇冥衆 二〇〇
 日本国中大小神祇冥衆 二〇一
 日本国中六十余州普天率土大小神祇冥道 二〇三
 山内諸神 二〇三
 十八大明神 二一〇
 祇園 二一〇
 住吉 二一〇
 日本六十余州大小神祇 二一〇
 日本国大小諸神 二一一
 三地大聖両所権現 二一二
 くわんしやうしたてまつるたいせうしよしん 二一八
 くわんしやうしまいらせ候大□□しよしん 二一九

くわんしやうしまいらする大小のしよしん 一三二〇

くわんしやうしたてまつる 一三二二

金峯 一三二二

【星宿・道教神等】

北辰北斗 一三二一、一三三二

七曜九曜 一三二一、一七四

十二宮神 一三二一、一三三二

廿八宿(二十八宿) 一三二一、一三三二、一七四

本命元辰 一三二一、一三三〇(命元神_辰)、一三三二

当年属星 一三二一、一三三〇、一三三二

内宮外宮(内官外官)大小星宿 一三二一、一三三〇、一三三二

焰(揆)魔法王 一三二一、一三三二、一四三

泰山府君 一三二一、一三三二、一四三(泰山府君)

司命司録 一三二一、一三三二

五道大神 一三二一、一三三〇、一三三二

百部鬼王 一三二一、一三三〇、一三三二

北斗七星 一三三〇

七曜九執	一三〇、一三一
三所権現	一三七
北斗□	一四三
九曜風星	一四三
五道冥官	一四三
【人物・怨霊神等】	
声聞縁覚諸賢聖主	一二一、一三二
声聞縁覚	一三〇
烈祖囊聖	一三〇
三国伝灯諸大阿闍梨	一三三
北野天満天神	一三五、一七四（北野）、二〇九（きたの、たまん天神）、二二〇（北野）
七廟聖霊	一三五
代々列祖	一三五
天満大自在天神	一三八
大師聖霊	一五〇ノ一
武内大臣	一六五
自宗高祖諸大師	一七四

大師 一七五、一八五

天満天神 一九五、二二一

松坂惣社天満天神 一九六、一九七

高祖大師 二〇五

祖師 二二三(三室―)

一体理体化相住持 二二七

三師七証 二二七

現前得戒大比丘 二二七

【神仏ないしその他一切の総称】

冥衆諸神 一三〇

勸請神祇冥道、諸尊聖衆 一三四

神仏 二〇六

【罰の内容・形態、神仏列挙の構造等】

罰 一一一、一二〇、一二一、一二四、一二七、一三七、一四一、一四三(□罰)、一四五、一八四、二〇〇、

二〇七、二〇九(はち)、二二一、二二六(ハち)、二三三

内……、外…… 一一二

神罰 一二二、一二四、一三八、一三四(蒙―受冥罰)、一五三、一五四

可有其誠 一一二

停廢其一烈(列)、可令追出山門 一一三

菅非蒙頭之□勘、必可有冥之裁罰乎 一一三

准吾神之讎敵 一一七

冥頭(之)罰(刑罰) 一一七、一六六、一七一、一七二

毛穴(毛孔) 一一八(每—)、一二二(八万四千—每)、一二七(八万四千—コトニ)、一三四、一三八

(我八万—)、一四三(八万四千之—)、一四九(五体身分之八万四千之毛之穴)、一五二(八万

四千—)、一五二(每八万四千之—)、一六三(身内—每)、一六六(八万四千—)、一七二

(每違背輩八万四千—)、一七三(八万四千之—每)、一七四(八万四千之—)、一八五(八万

四千—)、一九二(每八万四千—)、一九三(每八万四千—)、二〇〇(八万四千作—)、二

〇一(每八万四千—)、二二〇(八万四千—)、二二一(每八万四千—)、二二八(八万四千

のけのあな)、二二九(八万□千のけのあな)、二三〇(八万四千のけのあな)、二三三(八万四千

每—)

知見 一二三(御—)、一九八(可有御—)、二〇八(可有御—)

現世(二八)……、後生(二八)…… 一二五、一四六、一五七、一七〇、二二五

受疾病 一二五

其身損 一二五(長—)

冥罰 一二五(加盟——)、一二六、一三四(蒙神罰受——)、一五〇ノ一、一五一、一五五

不可有出期 一二五

罪 一二五(可隨此——)

可被改易作人 一二六

治罰 一二九(可加——)、一三六(可加——)、一四六(加——)、一四七、一七五(御——)、一七九(御——)、二〇五(御——)、二二二(御——)

可加衛護 一三〇

冥(者) ……、頭(者) ……

不可為子孫末葉 一三一、一三七

御罰 一三一、一三九、一四〇(御はち)、一四一(御はつ)、一四四(御はち、御は□)、一六〇、一六二、一六

七、一七七(御はち)、一八七、一八九(こはつ)、一九二、一九三、一九四(——可蒙現当二世)、一九

五、一九六、一九七、二〇一

非門徒 一三三(永——)

証罰 一三三(加速疾之——)、一六四、一八三(冥加——)

失現当之利益 一三三(可——)

神罰冥罰 一三四(蒙神罰受冥罰)、一四八、一四九(神罰みやう罰)、一五六、一五九、一六三、一六八、一六

九、一七三、一七六、一八五、一九一、二〇二、二〇三、二〇四、二一〇、二一四、二二五、二二八

九、一七三、一七六、一八五、一九一、二〇二、二〇三、二〇四、二一〇、二一四、二二五、二二八

(しんはちみやうはち)、二二九(しんはちみやうはち)、二二〇(しんはちみやうはち)、二二二

冥罰神罰 一三五(受——)、一五二、一六一、一七四

三日七日内 一三五(三日若七日之内)、二二八(ちかくハ三日、とをくハ七日)、二二九(ちかくハ三日、□□く

ハ七日)、二二〇(ちかくハ三日、とをくハ七日)

罪科 一三七(可被行所当之——)

縦横割破於五体身分 一三八

病 一四六

白癩 一四六、一七三

短命 一四六

衆人ニ被悪厭 一四六

不可有出離期 一四六(雖經無數劫——)

灾禍 一五〇ノ一

惣……、別…… 一五三、一五四

白癩黒癩 一五七(受——)、一八五(受——重病)、二二五(——得病)

にくまれ 一五八、二〇六

兼……、惣…… 一六一

さいくわ 一六二ノ一(いかなる——)、一六四ノ一(いかなる——)

- 惣……、殊…… 一六三
- 照鑑 一六五、一八一
- 多病短寿 一七〇
- 殊……、別…… 一七三
- 貧窮孤独 一七三(――報)
- 上……、下……、惣……、別…… 一七六
- 知見証明 一七八
- 殊……、別……、惣…… 一七九
- 災難 一八〇(与――)
- 現当二世衆苦連続 一八〇
- 未来永劫無出離 一八〇
- 現身……、当来…… 一八二
- 癡病切心身 一八二
- 不聞父母三宝名 一八二
- 災殃苦難 一八三(墮――之中)
- 無免脫死 一八三
- 照察 一八三(垂――)

今生……、来世…… 一八五

証明 一八六（為↓）

失出離道 一八八（永遠↓）

御神罰 一九〇

証知 二二三（——懇志）